



FINES (Fujico Information Network System) の構築 基盤整備の完成、そして高度化への展開

システム化推進室
武田 勝義
Katuyoshi Takeda

1 緒言

弊社では、業務効率化、省力化を始め、さまざまな社内外情報の迅速な収集かつ共有化を目的として、FINES (フジコー情報ネットワークシステム) の構築を強力に推進してきた。平成8年度から企画検討を開始し、平成9年2月からの、給与システム運用をスタートとして、広範囲な業務にわたり全社的な展開が行われ、確実に成果を挙げてきた。さらに、生産管理情報と営業販売情報の一体化を実現し、平成10年10月からの運用開始に向けて、営業支援システムのレベルアップを推進している。ここに、その概要を紹介する。

2 経緯

コンピュータ情報社会が、ここ数年大きく変化し始めた。従来の大型のホストコンピュータ/ワークステーションを活用したシステムから、ダウンサイジング/オープン化という言葉に表現されるクライアント・サーバ方式を、各企業は積極的に導入開始した。また、インターネットの急激な普及とともにその技術を企業内情報システムに取り入れたイントラネットシステムも盛んに採用されるようになった。

弊社も、従来はホストコンピュータによる基幹業務処理システムであったが、業務効率化や省力化を目的としたコンピュータシステムの再構築の気運が高まってきた。

これらのニーズを受け、業務効率化推進室では、平成8年度より新システムの構築を開始した。第一ステップとして、仙台から北九州までの広範囲に及ぶ全社のネットワーク網の整備および財務給与システム導入を目標とし、関係部署の協力を得て、具体的な検討作業に入った。

システム開発にあたっては、システム設計・製作・維持を、すべてアウト・ソーシングとし、システムの高品質化、要員効率化、安定運用をめざした。

3 システム構築上の問題点

弊社の場合、8事業所、3工場、5営業部、3出張所が、北九州地区から仙台地区までに点在しており、情報が局地化しやすく、情報伝達の遅れによる、意思決定の遅れを招きやすい状況にあった。システムの構築にあたっては、社内の各業務機能をLANで結び、遠隔地にある事業所や営業部間を、いかに効率的なネットワークにするかが、重要であった。

また各事業所・工場や各営業部では、情報の共有化意識も低かったので、教育啓蒙を同時に進める必要もあった。

4 システムの構築と導入

これらの状況を勘案し、次の2ステップに分け、状況を確認しながら、進める事にした。第1ステップでは、会社幹部と本社管理部門に、財務情報を直結させ、状況把握を迅

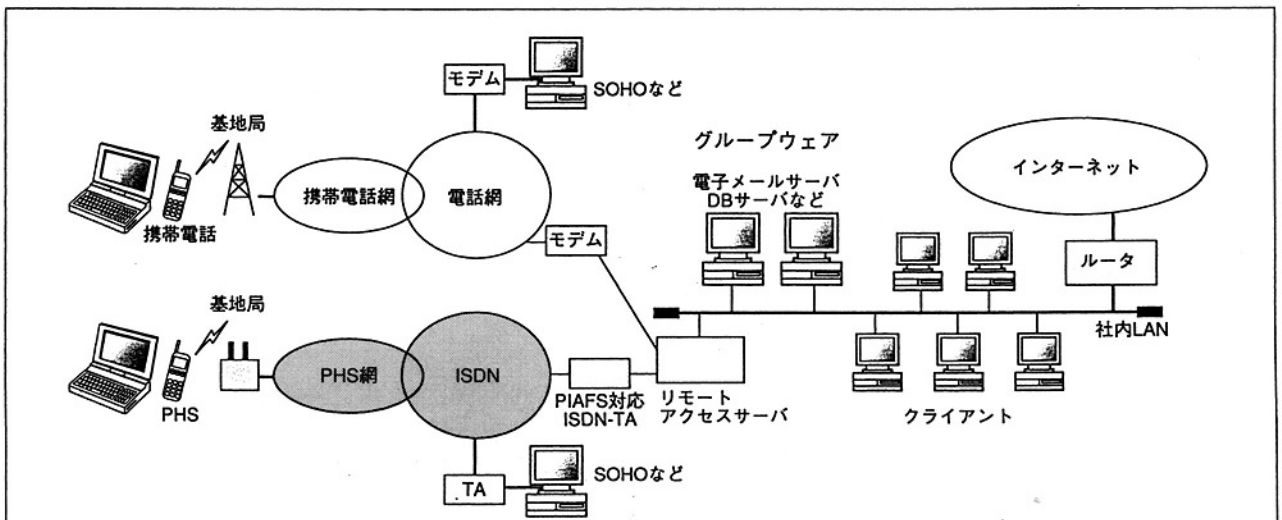


図-1 モバイル・コンピューティングシステム概念

